



地域の自慢

市域の中央部に位置する館山地区は、大きく館山と豊津の二つの地域に分かれますが、笠名地区は、その

旧豊津村の四地区の中で宮城地区と大賀地区に隣接しています。蟹田川が流れ、その左岸一帯には弥生・土師の遺物を包蔵する笠名遺跡があり、また、昭和になってから建設された軍事施設、洲ノ埼海軍航空隊射撃場跡等のある丘陵部と、現在は海上自衛隊第二十一航空群館山航空基地となっている海岸部から成り、古代の遺跡から近代の戦跡まで様々な時代の遺構が残る地域です。古くは農業と漁業を生業としてきましたが、現代は漁師はおらず、稲作をしている農家も三軒のみとなりましたが、市営住宅を含めて四四〇世帯程となる市内でも比較的住民の多い深い歴史を秘めた地区です。

近隣には館山海上技術学校

があり、神社は笠名区民の崇敬を集める神明神社、寺院は長泉寺と、平安時代の特徴をもつ木造阿弥陀如来立像を本尊とする安楽寺があります。また、かつて天神宮が祀られていましたが、洲ノ埼海軍航空隊開設によって神明神社に合祀された天神山には防空壕も残されています。

区、氏子、青年会、青年会OBの明栄会等からなる地域の人々の結び付きは強く、祭礼はもちろん、青年会主催で行われる7月のバーベキューや八月の納涼大会、十二月のクリスマス会やお正月の初詣での接待等、区民が一体となった行事も多く、伝統と誇りを持ち、地域愛と元気に溢れる自慢の笠名区です。

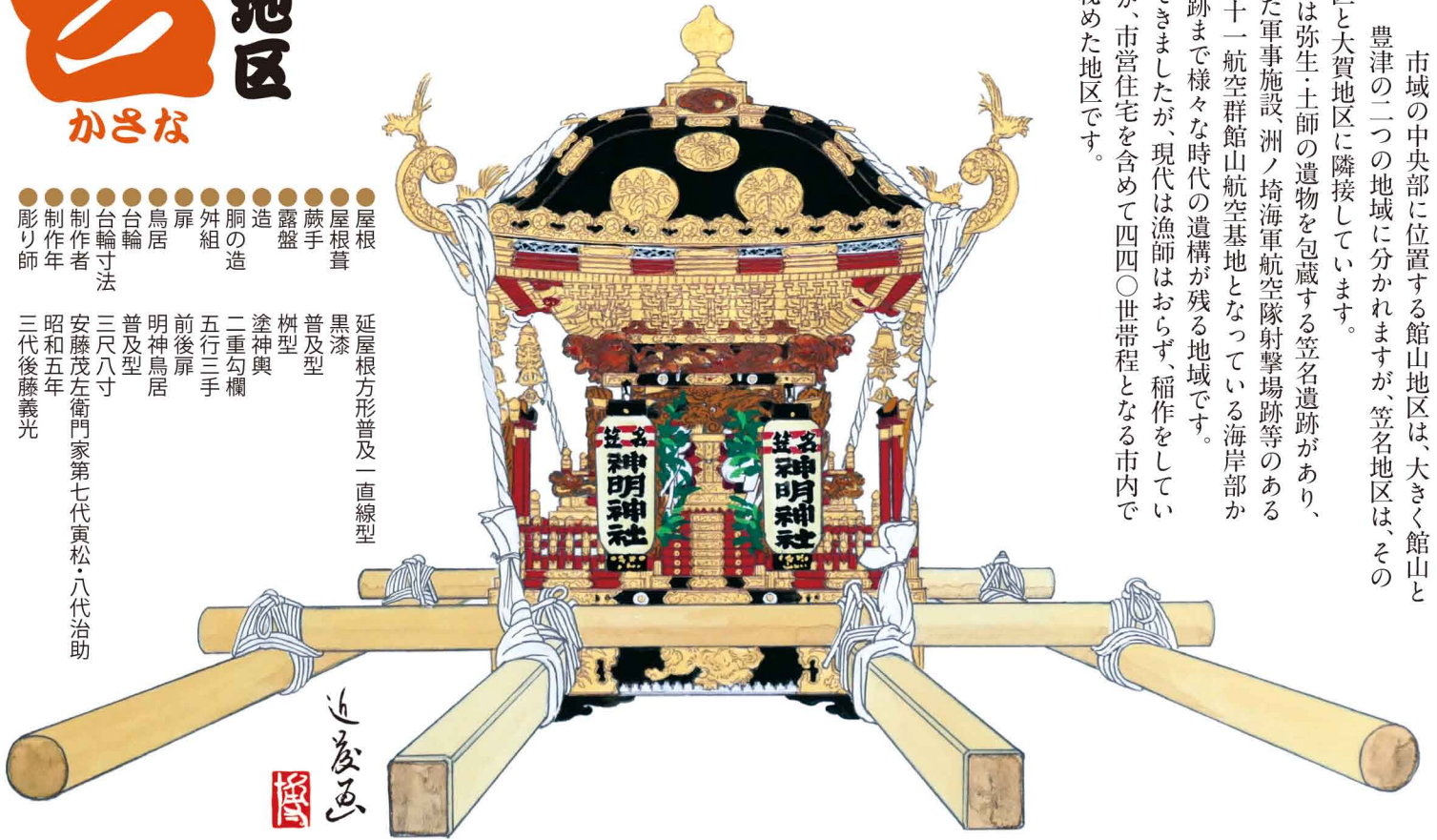
笠名

かさな

館山市館山地区

- 屋根
- 屋根葺
- 葺手
- 露盤
- 胴の造
- 舂組
- 屏
- 鳥居
- 台輪
- 台輪寸法
- 制作者
- 彫り師

- 延屋根方形普及一直線型
- 黒漆
- 普及型
- 樹型
- 塗神輿
- 二重勾欄
- 五行三手
- 前後屏
- 明神鳥居
- 普及型
- 三尺八寸
- 安藤茂左衛門家第七代寅松・八代治助
- 昭和五年
- 三代後藤義光



繊細で美しくバランスのとれた神輿

始めは白木の神輿でしたが、平成十五年の修復で初代神輿と同じ黒塗りとなりました。野筋が二重構造になっているところや葺手が鋳物で中の模様様が巴と花模様になっているところなどは、他には見かけない意匠の笠名区民自慢の神輿です。

彫刻は三代目・後藤義光の手によるもので、右は「高砂の松の翁・媪と鶴・亀」、左は「神武天皇東征のみぎり」で天皇の弓の先に金色の鶯が止まった時の状況を表した見事な彫物です。



高砂の松の翁・媪と鶴・亀



神武天皇東征のみぎり

自慢の神輿

笠名区神明神社の神輿は館山十三地区合同祭に出祭します。

初代の神輿は黒塗り総樺造りで、扉の上下の横棧には螺鈿細工が施された、大変重たい神輿であったと言われています。その初代神輿は曾呂村西神社へ売却されたと言われています。

そして現在担がれている神輿は、昭和五年に笠名地区の木工・安藤茂左衛門家の七代目・安藤寅松と八代目・安藤治助によって製作されました。